大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F118210105602	設置等組織名	恐竜学部（恐竜・地質学科（仮称））、生物資源学部（生物資源学科（検討中）、創造農学科（検討中））
大学名	福井県立大学	設置区分	公立		
学校種	大学	都道府県	福井	事業計画名	福井県立大学 学部の新設、既存学部における学科の新設（２件）

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	○令和7年度への新学部・新学科開設に向けた検討体制の構築 １-①認可申請等に向けた事務環境の整備（令和5年度） １-②進学説明会、オープンキャンパスの実施（令和5年7～9月頃） １-③広報活動の実施（令和5年度） ・高校訪問の実施（令和5年7～9月頃）	○令和7年度への新学部・新学科開設に向けた検討体制の構築 １-①認可申請等に向けた事務環境の整備（令和5年度）※既存の事務用品で実施（R6.3.29承認） １-②進学説明会、オープンキャンパスの実施（令和5年7～9月） １-③広報活動の実施（令和5年度） ・高校訪問の実施（令和5年7～9月）	令和5年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
令和6年度	○令和7年度への新学部・新学科開設に向けた検討体制の構築 １後-①認可申請等に向けた事務環境の整備（令和6年度） １後-②学部設置に係る認可申請支援業務委託（補正申請）の実施（令和６年4月） １後-③進学説明会、オープンキャンパスの実施（令和６年7～9月頃） １後-④広報活動の実施（令和６年度） ・各種進学サイトへの掲載（令和６年4月頃）、ＳＮＳ広告の実施（令和６年7～9月頃） １後-①地域の企業や他機関との連携のための事前調整（令和6年度） １後-②海外発掘調査事前調整（令和6年度） ○新学部棟などの整備 ２-①恐竜学部棟の整備（初年度） ・場所：福井県勝山市（福井県立恐竜博物館隣接地）・延床面積：約4,200㎡（RC、３階建て） ２-②生物資源学科（仮称）研究施設の改修等（令和６年度） ・場所：福井県永平寺町（永平寺キャンパス内） ２-③創造農学科（仮称）農産物県産化棟の整備（令和６年度） ・場所：福井県あわら市（あわらキャンパス内）・延床面積：約300㎡	○令和7年度への新学部・新学科開設に向けた検討体制の構築 １後-①認可申請等に向けた事務環境の整備（令和6年度） １後-②学部設置に係る認可申請支援業務委託（補正申請）の実施（5月） １後-③進学説明会(東京6月、大阪・名古屋7月、福岡8月、金沢9月)、オープンキャンパスの実施（8月） １後-④広報活動の実施（令和６年度） ・各種進学サイトへの掲載（5～3月）、ＳＮＳ広告の実施（5～3月） １後-①地域の企業や他機関との連携のための事前調整（令和6年度） １後-②海外発掘調査事前調整（7/24～8/6 アメリカ、8/13～22 カナダ） [改組内容] ・令和６年 既存学部における学科の新設（２件）のうち生物資源学部生物資源学科（検討中）について、教員確保が困難となったため、新設を取りやめとなった。（R6.8.6承認） ○新学部棟などの整備 ２-①恐竜学部棟の整備（初年度） ・場所：福井県勝山市（福井県立恐竜博物館隣接地）・延床面積：約4,200㎡（RC、３階建て） ２-②恐竜学部にかかる研究・教育備品の整備（初年度）（R6.8.6承認） ・大型ＣＴ（工業用）、３Ｄプリンター ２-③創造農学科（仮称）農産物県産化棟の整備（令和６年度） ・場所：福井県あわら市（あわらキャンパス内）・延床面積：約300㎡	令和6年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
令和7年度	後２-①恐竜学部棟の整備（2年目） ・場所：福井県勝山市（福井県立恐竜博物館隣接地）・延床面積：約4,200㎡（RC、３階建て） ３-①地域連携ディレクターの設置（令和7～10年度） ・勝山キャンパスを中心に地域の企業や初等中等教育機関との円滑な連携を実施するため企画・連絡・調整を行う。 →県内の会社等と連携し、県内のフィールドを活用したＰＢＬを実践 →県立恐竜博物館へ来館した児童・生徒へ体験授業を実施、女子学生対象イベントを実施、県内の小中高へ出向き探究学習を実施 ３-②進学説明会、オープンキャンパスの実施（令和7～10年7～9月頃） ３-③広報活動の実施 ・各種進学サイトへの掲載（令和7～10年4月頃）、シンポジウム開催（令和8年6月頃）、ＳＮＳ広告の実施（令和7～10年4月頃）	後２-①恐竜学部棟の整備（2年目） ・場所：福井県勝山市（福井県立恐竜博物館隣接地）・延床面積：約4,200㎡（RC、３階建て） ３-①地域連携ディレクターの設置（令和7～10年度） ・勝山キャンパスを中心に地域の企業や初等中等教育機関との円滑な連携を実施するため企画・連絡・調整を行う。 →福井県内において事業活動を行っている大日本印刷㈱と新たな事業創出を中心とした産業振興や人材育成等を目的としてR7.9月に連携協定を締結（9月） →県立恐竜博物館へ来館した児童・生徒へ体験授業を実施（7月、9月）、女子学生対象イベントを実施（2月）、県内の小中高へ出向き探究学習を実施（8月） ３-②進学説明会（高崎5月、東京6月、福井6月、名古屋7月、大阪7月、北海道7月、福岡8月）、オープンキャンパスの実施（8月、10月） ３-③広報活動の実施 ・進学サイトへの掲載は、学部HPを拡充、SNS広報に強化することで対応、シンポジウム開催（令和8年6月頃）、ＳＮＳ広告の実施（12月～3月）	令和7年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	【令和7～10年度】 ３-①地域連携ディレクターの設置（令和7～10年度） ・勝山キャンパスを中心に地域の企業や初等中等教育機関との円滑な連携を実施するため企画・連絡・調整を行う。 →県内の会社等と連携し、県内のフィールドを活用したＰＢＬを実践 →県立恐竜博物館へ来館した児童・生徒へ体験授業を実施、女子学生対象イベントを実施、県内の小中高へ出向き探究学習を実施 ３-②進学説明会、オープンキャンパスの実施（令和7～10年7～9月頃） ３-③広報活動の実施 ・各種進学サイトへの掲載（令和7～10年4月頃）、シンポジウム開催（令和8年6月頃）、ＳＮＳ広告の実施（令和7～10年4月頃）		令和8年度自己評価　リストから選択してください。
令和9年度	【令和7～10年度】 ３-①地域連携ディレクターの設置（令和7～10年度） ・勝山キャンパスを中心に地域の企業や初等中等教育機関との円滑な連携を実施するため企画・連絡・調整を行う。 →県内の会社等と連携し、県内のフィールドを活用したＰＢＬを実践 →県立恐竜博物館へ来館した児童・生徒へ体験授業を実施、女子学生対象イベントを実施、県内の小中高へ出向き探究学習を実施 ３-②進学説明会、オープンキャンパスの実施（令和7～10年7～9月頃） ３-③広報活動の実施 ・各種進学サイトへの掲載（令和7～10年4月頃）、シンポジウム開催（令和8年6月頃）、ＳＮＳ広告の実施（令和7～10年4月頃）		令和9年度自己評価　リストから選択してください。
令和10年度	【令和7～10年度】 ３-①地域連携ディレクターの設置（令和7～10年度） ・勝山キャンパスを中心に地域の企業や初等中等教育機関との円滑な連携を実施するため企画・連絡・調整を行う。 →県内の会社等と連携し、県内のフィールドを活用したＰＢＬを実践 →県立恐竜博物館へ来館した児童・生徒へ体験授業を実施、女子学生対象イベントを実施、県内の小中高へ出向き探究学習を実施 ３-②進学説明会、オープンキャンパスの実施（令和7～10年7～9月頃） ３-③広報活動の実施 ・各種進学サイトへの掲載（令和7～10年4月頃）、シンポジウム開催（令和8年6月頃）、ＳＮＳ広告の実施（令和7～10年4月頃）		令和10年度自己評価　リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価　リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価　リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価　リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価　リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和６年3月 恐竜学部恐竜・地質学科（仮称） 設置認可申請予定 令和６年３～１２月 生物資源学部生物資源学科（検討中）、創造農学科（検討中） 学科の設置届出予定	令和6年3月 恐竜学部恐竜・地質学科（仮称）設置認可申請 令和6年7月 生物資源学部創造農学科（検討中）設置届出	
定員減又は 学部等の廃止	令和６年３～１２月 ７０人減員に係る届出予定 令和７年３～１２月 ４０人減員に係る届出予定	令和6年7月 生物資源学部創造農学科学生募集停止の報告（入学定員25人、農学関係） 令和７年度 生物資源学部創造農学科学生募集停止	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	福井県立大学
		学部学科名	恐竜学部恐竜・地質学科

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑭の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑭の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通した教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
■ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
■ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業との連携について、講師として招くことやインターンシップで訪問することを計画している。また、自治体（県や勝山市等）と連携して域内フィールドにおける実習活動の実施や小中高生の探求学習の支援を行う。これらに加えて、県が実施する未来協働プラットフォームふくい推進事業を通じて、地元企業とのPBLや共同研究を実施し、地元産業に関して現場での実践的な学びを行うことを検討する。海外大学との連携として、恐竜学部では海外大学や研究機関の教員によるオンラインでの講義を予定している。この講義では、海外発掘調査の最先端の知識や各国の地質学的特徴について学ぶ。また、実際に海外を訪問して、発掘調査や現地の施設見学を行うことも検討しており、発掘調査能力や海外でのコミュニケーション能力の向上を目指す。また、他大学との連携しては、単位互換制度を活用し、連携できる組織を今後も増やしていくことを計画している。本学においては、在学中に県内協定校（７校）において修得した単位が、本学の単位として認定される制度を設けている。この制度を利用して、自身の研究のさらなる発展や課題解決能力の向上が期待できる。	（企業や自治体と連携） ・（公財）高輝度光科学研究センターと人材交流、研究施設・設備の相互利用等を目的としてR7.8月に連携協定を締結した。 ・大日本印刷（株）と新たな事業創出を中心とした産業振興や人材育成等を目的としてR7.9月に連携協定を締結した。 ・徳島県立博物館と両地域における生涯学習活動支援の推進や共同研究等を目的としてR7.11月に連携協定を締結した。 ・御船町恐竜博物館と学術的成果の普及に資する取り組みや人材育成等を目的としてR7.12月に連携協定を締結した。 ・「地球科学フィールド実習１」において、R7.6月、7月に福井県立恐竜博物館で実習を実施。 ・大野市と連携し和泉郷土資料館などでR7.5月に実習活動を実施 （海外大学との連携） ・海外発掘調査実習の候補先の一つであるモンゴル科学アカデミー古生物学研究所と共同調査・研究や人材育成等を目的としてR8.1月に連携協定を締結した。 ・国内外の恐竜研究者が集まる第6回アジア恐竜国際シンポジウムをR7.9月に本学にて開催し、最先端の知識や国際コミュニケーション能力を養った （地域の他大学と連携した科目） ・R7年度後期に、恐竜学部教員が行う専門科目等3科目を単位互換制度を活用し、県内協定校に開放した。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

□ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
■ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生確保に向けた取組として、令和4年度に福井県立恐竜博物館が実施した「恐竜女子学院2022」を挙げることができる。このイベントでは、恐竜など古生物に関心を持つ女子学生（小中高生）21名が恐竜博物館に集い、現役の女性研究者などとの交流を通して、自然科学に対する理解を深めた。恐竜学部においても、恐竜博物館と連携し、博物館来館をきっかけとした恐竜への興味関心を育て、恐竜→古生物→地球科学へと発展させるようなイベントの展開を予定している。 社会人の受け入れとしては、科目等履修生・聴講生制度を挙げることができる。平成30年度から令和4年度までの過去5年間平均で、科目等履修生が年間約6人、聴講生が約41人受け入れている。また、入試において、社会人特別選抜や学士編入制度についても検討する。 留学生の受入れについて、恐竜学部では、特別選抜の一つにおいて「私費外国人留学生特別選抜」を行う。入学後については、チューター制度を利用し、留学生１人につき、本学日本人学生１人を付け、履修登録や生活をサポートする。	（女子学生確保に向けた取組） ・R8.2に姫路東高校が主催する女子学生向けＳＳＨイベントへ参加し、恐竜や地球科学への興味関心を育んだ。 ・SNS(X, Instagram)の運用して、女子学生を含む多くの学生等へ情報発信を行った。 （地域の初等中等教育段階の学校との連携） ・県内の小学5年生を対象とした「かつやま恐竜スクール」の講座や、中学校・高校での講座や講演を実施した。 ・勝山高校と学生・生徒、研究者・教員の交流等を目的としてR7.6月に連携協定を締結した。 （社会人学生の受入れ強化に向けた取組） ・社会人特別選抜により、社会人1名が合格し入学した。 （留学生の受入れ強化に向けた取組） ・私費外国人留学生特別選抜により、留学生の募集を行ったが、合格者なしという結果となった。	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	福井県立大学
		学部学科名	生物資源学部創造農学科

2.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

3.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
□ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
□ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
福井県と連携し、未来協働プラットフォームふくい推進事業を通じて、地元企業によるPBL2件と共同研究1件を実施し、地元産業に関して現場での実践的な学びを構築している。PBLの一例として、上述したあわら丘陵地特産フルーツを使用した「ふくこむぎフルーツビザ　開発プロジェクト」だけでなく、「地場農産物を活用した新たな商品開発プロジェクト」では、坂井市、あわら市の地場農産物の生産・流通状況を調査し、トマトソースなど新商品開発に向けた食材や加工法を検討、商品化の提案まで行っている。共同研究として、「越前水仙の品質保持剤の開発」においては、水仙の栽培現場や球根準備などの栽培管理について理解を深め、品質保持試験を実施している。今後は、環境に配慮した堆肥製造についてJA福井およびレンゴー株式会社ＰＢＬや共同研究を実施する計画である。こうした企業等との連携を通じて、学生自身が自分たちの手で地元の魅力や価値を創造し、地域産業の活性化を目指す。「食の６次産業化プロデューサー育成プログラム」では、北陸地区の大学で唯一レベル３まで取得可能である。今後、一般社会人が科目等履修生として受講できるよう準備する。	福井県と連携し、「未来協働プラットフォームふくい推進事業」を通じて、地元企業によるPBL1件および共同研究12件を実施し、地元産業に関する現場での実践的な学びの機会を構築した。PBLでは、本学科が育種開発した「ふくむぎ」を使用したモーニングセット開発プロジェクトを実施した。共同研究では、水仙の栽培現場や球根準備などの栽培管理について理解を深めるとともに、地元企業との協働により、水仙に特化した品質保持剤を開発した。また、坂井市春江町の伝統野菜である越前台茎ごぼうを活用し、新たにお茶やベビーカステラの商品開発を行った。福井商工会議所が主催する「福井みやげコンテスト」では、三里浜オリーブを使用した「三里浜ドレッシング」が優秀賞を受賞した。さらに、芦原温泉、地元農場、酒造会社と連携した酒造りプロジェクトも継続して実施している。こうした企業等との連携を通じて、学生自身が地元の魅力や価値を創造し、地域産業の活性化に貢献できる人材の育成を目指している。また、農業の六次産業化を推進する人材の育成を目的として、学生が地域農作物を活用した商品開発に取り組むための食農交流棟を開設した。『食の6次産業化プロデューサー育成プログラム』では、北陸地区の大学で唯一、レベル3まで取得可能な体制を整えている。今年度は、レベル3に4名、レベル2に2名、レベル1に1名が認定され、今後さらに2名が申請予定である。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
□ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
□ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜については、現学科において、品種改良、農業経営など農学を志望する学生がこれまで主要なターゲットであった。新学科では、農学の知識だけではなくサービス業や食品加工開発など、これまで以上に多様な能力の習得が求められる。そのため、推薦入試、総合型入試、一般選抜前期入試、3年次編入学など多様な入試に加え、一般選抜後期入試の実施を計画している。女子学生については、現学科では、学生数116名のうち65名であり(R5.5現在)、十分確保できている。地域の初等中等教育との連携については、R4実績では、県内の高校７校の課題探求活動授業のコメンテーターなどの協力を行い、８月には仁愛女子高等学校グローバルサイエンスコースの生徒15 名（教諭３名）を、３月には、県立高志中学校の３年生30 人（教諭２人）を受け入れて実習・講義を行った。今後も、地域の小中高校への出前講座や探求学習の支援を通して、多様な入学者の確保に努めていく。、社会人学生の受け入れについては、3年次編入学を新たに学士編入学試験として実施し、リカレント・リスキリングへの対応を施していく計画である。	これまで入学者選抜においては、品種改良や農業経営など、農学をお望する学生を主要なターゲットとしてきた。一方、新学科のコンセプトには、農業に加えて食品や環境などの分野も含まれており、学生には、社会実装を見据えたより多様な能力の習得が求められる。そのため、推薦入試8名、総合型入試10名、一般選抜前期入試10名、一般選抜後期入試5名、3年次編入学5名という多様な選抜区分を設け、入学者の確保に努めた。
現学科の女子学生については、学生総数133名のうち73名であり、十分に確保できている。地域の初等中等教育との連携については、連携協定を締結している金津高等学校において、出前講座として「食農環境ゼミ」を5回開講した。また、同校を対象にキャンパスツアーを実施した。さらに、県内高校の課題探究活動授業やマイスター・ハイスクール事業、すなわち次世代地域産業人材育成刷新事業におけるコメンテーターなどとして協力したほか、県立高志中学校の生徒を受け入れ、実習・講義を行った。
今後も、地域の小中高校への出前講座や探究学習の支援を通して、多様な入学者の確保に努めていく。社会人学生の受け入れについては、次年度より3年次編入学を新たに学士編入学試験として実施し、リカレント教育・リスキリングへの対応を進める予定である。	

大学名	福井県立大学

１.本事業対象となる学部等の状況

<合計>

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人			60																
		編入学定員	人			-	-															
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	60	60															
		入学者数	人	-	-	71	69															
		女子学生数	人	-	-	41	29															
		社会人学生数	人	-	-	2	1															
		留学生数	人	-	-	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	60	60															
		入学者数(B)	人	-	-	71	69															
		女子学生数	人	-	-	41	29															
		社会人学生数	人	-	-	2	1															
		留学生数	人	-	-	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	1.18	1.15															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	60	120															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	-	71	140															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	1.18	1.17															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	18	22															
		授業科目の単位数	単位	-	-	66	113															

大学名	福井県立大学

本事業対象となる学部等の個数	3

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	恐竜学部恐竜・地質学科（理学関係）

大区分	小区分	年度 / 改組状況 / 項目	単位	R5年度 選定	R6年度 認可	R7年度 開設	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
	事業計画に定める定員	入学定員	人			30																
		編入学定員	人			-	-															
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	30	30															
		入学者数	人	-	-	34	34															
		女子学生数	人	-	-	17	11															
		社会人学生数	人	-	-	2	1															
		留学生数	人	-	-	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	30	30															
		入学者数(B)	人	-	-	34	34															
		女子学生数	人	-	-	17	11															
		社会人学生数	人	-	-	2	1															
		留学生数	人	-	-	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	1.13	1.13															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	30	60															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	-	34	68															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	1.13	1.13															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	7	8															
		授業科目の単位数	単位	-	-	4	34															

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

大学名	福井県立大学

(2)

改組内容	既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	生物資源学部生物資源学科（新設取りやめ）　（農学関係）

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
改組状況				選定																		
事業計画に定める定員		入学定員	人																			
		編入学定員	人																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-																		
		女子学生数	人	-																		
		社会人学生数	人	-																		
		留学生数	人	-																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-																		
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

大学名	福井県立大学

(3)

改組内容	既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	生物資源学部創造農学科（農学関係）

		年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況		選定	届出	開設																
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人			30																
		編入学定員	人			-	-															
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	30	30															
		入学者数	人	-	-	37	35															
		女子学生数	人	-	-	24	18															
		社会人学生数	人	-	-	0	0															
		留学生数	人	-	-	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	30	30															
		入学者数(B)	人	-	-	37	35															
		女子学生数	人	-	-	24	18															
		社会人学生数	人	-	-	0	0															
		留学生数	人	-	-	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	1.23	1.17															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	30	60															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	-	37	72															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	1.23	1.20															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	11	14															
		授業科目の単位数	単位	-	-	62	79															

大学名	福井県立大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	150	150	190	190															
		入学者数	人	160	171	210	207															
		女子学生数	人	65	70	79	77															
		社会人学生数	人	0	0	2	1															
		留学生数	人	0	2	1	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	150	150	190	190															
		入学者数(B)	人	160	171	210	207															
		女子学生数	人	65	70	79	77															
		社会人学生数	人	0	0	2	1															
		留学生数	人	0	2	1	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.07	1.14	1.11	1.09															
	収容定員等	収容定員(C)	人	550	580	650	690															
		編入学定員	人	10	10	10	5															
		在籍者数(D)	人	583	619	706	754															
		編入学者数	人	7	4	6	6															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.06	1.07	1.09	1.09															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	121	113	154																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	34	35	49	54															
		授業科目の単位数	単位	127	129	170	229															

大学名	福井県立大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	430	430	470	500															
		入学者数	人	469	493	522	545															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	430	430	470	500															
		入学者数(B)	人	469	493	522	545															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.09	1.15	1.11	1.09															
	収容定員等	収容定員(C)	人	1670	1700	1770	1840															
		編入学定員	人	10	10	10	5															
		在籍者数(D)	人	1839	1886	1996	2054															
		編入学者数	人	7	4	6	6															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.10	1.11	1.13	1.12															

４.外部資金の状況（全学）

年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況		申請−5年	申請−4年	申請−3年	申請−2年	申請−1年	選定		開設											
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	165,121	124,084	204,067	192,453	357,213	319,466	399,265	440,837											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均（過去5年間における各年度の外部資金	千円	341,847
本事業による助成金の額(F)	千円	455,138
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	353,225

特記事項